様式1

【参考】令和４年度　学校評価表

学校教育目標	未来を拓き　人間力豊かに　学び続ける高見っ子の育成

a　ミッション	○小中連携教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進による 主体性・表現力の育成	a　ビジョン	人間の根っこを育てる学校づくり

尾道市立高見小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
気付き，幸せ，主体性，動き・表現する子供の育成（考え，力・かかわり合い）	関わり合いを通した主体的な学びの確立	児童が自ら学ぶための主体性と表現力の育成	カリキュラム・マネジメントを通して児童が主体的に課題発見・解決学習に取り組む授業づくりを進める。	理科・生活科における各単元の「主体的に学習に取り組む態度」における評価規準Ｂ評価以上の割合（評価規準に基づいた個々の児童の評価）	80	85	85	106	A	〔結果〕学年・月（単元）により，結果にばらつきは見られたが，概ね目標値に達する結果となった。 〔課題〕第６学年に課題があることがわかる。第６学年までの積み上げに課題がある。	3	0	0	・中期，短期の目標が明確に示され，方策，評価指標も大変よく考え，工夫されており，数値をあげて評価されており，適正である。 ・「第６学年までの積み上げに課題がある」「個別の課題に応じた補充学習の必要…」等，今後の取り組みの方向が明確になる評価となっており，適正である。 ・目標値を80としていることに対し，共通認識はどのように行っているか。 ・算数の基礎がわかる，漢字の読み書きができる，本当に大切だし，低学年からの積み重ねなのですね。これをやればできるという方法なんてないと思いますが，先生方，がんばってください。大変ですけど。 ・基本的な学力は必要だと思いますが，学問に興味をもたせ，自発的に学ぶ力を身につけることが重要だと思います。	・主体性については，「学びに向かう力」のうち，「諦めず粘り強く取り組む」「より高い目標を見据え，持続した学びにつなげる」ことが不十分であるため，学習者基点の学びになるような授業作りをしていく。
			論理的に表現できる児童を育成するために，理科・生活科を中心においた研究を行う。	各単元におけるまとめ・表現したもののＢ評価以上児童の割合	80	81	80	102	A	〔結果〕毎月の結果にばらつきがあるものの，平均値は81.6となり，目標値を上回っている。 〔課題〕表現を促す（何らかの表現につながる）支援だけでなく，表現の質の向上や，より自発的に表現できる意欲や態度の育成が必要である。					・表現力については，理科・生活科で培った力が他教科や日常生活でより発揮できるようにしていく必要がある。
			基礎的・基本的な学力を高めるために，補充学習を行う。	国語科・算数科単元末テスト（思・判・表）における単元末テスト問題通過率８０％以上の児童の割合（８０％以上）	80	76	79	95	B	〔結果〕全体平均値で目標値を達成できなかった。 〔課題〕目標値を下回った学年については，特に算数科に課題がある。下学年時の内容の理解定着が不十分な児童など，個別の課題に応じた補充学習の必要があるとともに，算数への苦手意識を取り除く必要がある。					・基礎的・基本的な学力の定着について，目標値を下回った学年は，特に算数科（知識・技能）に課題がある。既習内容を理解していないとそれを生かして思考・判断・表現をしていくことは難しいという実態がある。日々の授業改善でより深い学びにしていくことやその時間で付ける力の焦点化，個に応じた支援，そして家庭学習の工夫が必要である。
	自己を振り返り，よりよく生きようとする態度の育成	人との関わり合いを通じて，自他のよさを認め合う人間関係の形成	「しまっこしぐさ」を基盤とし，縦割り班活動や学校行事等を通して，自分のよさに気付き，友達のよさを感じられる児童を育成するとともに，自他のよさを具体的に表現できるようにする。	縦割り班活動や学校行事後の児童の振り返りで，自他のよさに気付いていた児童の割合（児童振り返りカードに具体的に記述する。）	80	[自] 77 [他] 93	[自] 75 [他] 85	[自] 96 [他] 116	B A	〔結果〕自分にはいいところがあると肯定的に捉えている児童は75%で目標値を達成できなかった。友達のいいところを見つけたと肯定的に捉えている児童は85%で目標値に達していた。 〔課題〕自分のいいところを答える事はできるが，それが自己肯定感の向上に繋がっていない児童が一定数いる。	3	0	0	・児童振り返りカードに具体的に記述する」等の方法で評価活動が行われており，評価は適正である。 ・「自分のよいところ」という問いは児童に具体的にどのように理解されているのか。教職員は一人一人に「あなたのよいところはこれ…」と話しかけているか。 ・説明書のP13にあるようにきめ細かくチェック，アンケートがされており，評価は適正である。 ・「怪我」「疲れ」に抵抗を感じている児童の背景は何なのか。 ・この前，新聞に睡眠時間がいかに大切かという記事がのっていました。生活リズムって一生大切なのだ。だからこそ今しっかり言っていかなくてはいけないのだと痛感しました。あとは，どういう行動が，どういう言葉がいじめにつながるのかということは，何度でも伝えてほしいことです。 ・縦割り班活動や生活リズムチェックなど，非常によいと思います。周りへの配慮，自己管理能力が高まることは人間力の高まりにつながるのでもっとおしすすめていただきたいです。	・自分のいいところを答えることができる児童は全体の約97%，友達のいいところを答えるできる児童は全体の95%となっている。しかし，自分にはいいところがあるか，という質問に対して否定的に捉えている児童がいる。そのため，今後はその児童が感じている自分のいいところを認め評価すること，加えて学校行事や縦割り班活動を通して，自他の良さを認め合える場を可能な限り計画的に設定していく必要がある。
		自らの生活を振り返り，よりよく生活しようとする態度の育成	成果を実感できるよう，めあてを意識して，振り返りをさせる。	生活リズムチェック表において，早寝・早起きを達成できた児童の割合	80	[寝] 80 [起] 90	[寝] 85 [起] 86	[寝] 103 [起] 110	A A	〔結果〕「早起き」について，目標値を6.2ポイント上回った。しかし，4年生の数値が低く，目標値に達しなかった。 〔課題〕目標の起床時間よりも遅くなっている児童が中学年に多い。「早起き」ができている割合が目標値に達していない学年は，「早寝」の目標値も達成していないことから，就寝時間が影響していると考えられる。					・異学年交流に限らず，各学年の実態に応じたルールや運動などに親しむ機会を増やし，体を動かすことで感じられる楽しさを味わえるような取組を行っていく必要がある。 ・柔軟に関しては，継続した長期間の取組を行うことが不十分だったと感じた。また，体力の向上という面からも，一つの課題に特化した取組のみではなく，複数の種目を練習できるサーキット・トレーニングを取り入れていきたい。
			運動好きな児童を増やし，体力を育むために，積極的に外遊びができる機会をつくる。	体を動かすことに肯定的な児童の割合（児童アンケート）	80	79	85	102	A	〔結果〕全体では目標値を5.9ポイント上回った。しかし，１年生の数値が低く，目標値に達しなかった。 〔課題〕怪我をすることや疲れることに抵抗を感じているため，体を動かして友達と活動する楽しさを感じられるような取組が必要である。					
				体力が向上した児童の割合（体力テストの再実施の結果）	80	―	56	70	C	〔結果〕全体では目標値を23.3ポイント下回った。 〔課題〕柔軟運動をする意義や目的を自分事として捉えられるよう支援していく必要がある。					

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。